(明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可)　(日刊)　月曜及祭日之翌日休刊　明治四十四年七月十二日(水曜日)　第七百二十七號　(一)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

月曜日及び大祭日の翌日は休日(日刊)
發行兼編輯人 高木久馬太郎
印刷人 松久靜一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社
仁川支局 仁川宮町三丁目
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

史譚 臨終の奈破翁

山水道人

第六回

まだ春淺き孤島の一夜。妖雲空に低く迷ふて風陰濕。四圍闇惱として夜氣沈鬱。魍魎闇に跳つて天の一方に慧星現はる。

皇帝の一從者是を望み。入つて帝に告げぬ。

病床に有りて臥げに是を耳にせし皇帝は。その刹那。怪しき自覺にうたれのしきの聲を放ちて。

「慧星？……朕の臨終は近づけり」

言ひ終つて暫時靜思に耽りしナポレオンは。やがて蒸湯を試みて。侍醫のアントマルシが。その脚部を溫めんとするを靜かに制しつ。

「否‼。万事終れり‼……汝の配慮は感謝に堪ねず。されどうは徒らなり‼朕が惱むは脚部に非ず。足部の冷ゆるは胃に熱有るが爲め耳。嗚呼。されど‼よし熱は退くとも。内に燃ゆつる胸の焔は。如何なる名醫。妙藥もよも消さじ。朕は今刻々に身の續き盡さるゝを待つ……」

經ねて數日‖四月十五日

親しくアントロン及びマルシャンの二將軍を召して遺言書を認めしむ。命了つて二將軍退くや。代つて侍醫アントマルシは伺候しぬ。皇帝は再び侍醫にも遺言の旨を語りぬ。

侍醫は徐ろに皇帝を慰めつ。

「陛下よ。願くば叡慮を安んぜられよこは聊かも生命に關するが如き病症にあらず。臣は最後の幸ひを豫期す」

「否‼。アントマルシよ。姑息の安慰を强ふるを已めよ。朕は既に是を知る今に於ては寧ろ死を待つ。徒らに要なき希望を繼ぐ勿れ」

時は次第に移り行く。やがて病苦は少しく薄らぎつ。皇帝の生氣稍々加はり來りしを親て。聊か愁眉を開き得たる侍臣等が。病床に近く祝福の辭を陳ぶるや。帝は是を顧みつ。

「人々よ。さなり。今日は昨日よりは苦痛は去り。幾分の輕快を覺ゆなり。されど。ゆめ誤想を懷く勿れ……朕の命は既に迫れり‼。ただ死期の至るを待つ‼。朕逝かば卿等は進に故郷に歸れ。さらば。いとしき妻子と相見るを得て。如何ばかりか樂しからむ。朕いたく是を喜ぶ。朕は獨り天國に入りて侍ちわべる亡友と會せむ……」

皇帝は今しも。うの病苦をも忘れたらむ如く。圍居の侍臣に親しみつ。爽かに晴れゆく聲を强め。

「然り。クレベー、ドウセー、ペツシエール、デユロツク、チー、ムユラー マツセナ、ベルチエー等は‼喜んで朕を迎へむ。而して渠等は共に往昔を語らむ……。かくて朕は此孤島に於ける朕が生活のいとも淋しく。悲慘なりし此末路を告げむ」

窓外の春徒らに闌けて。野に咲く花もいと稀に。うの夜の月は雲に隱れて光は晦く世を照らさず。

訂正　第四回目末尾より六行目「右ライド」は「ブライド」の誤植に付ク訂正す。

●木村博士の光榮

新に緯度變化の一現象を發見したる外天文學の造詣深き爲め昨年六月を以て英國王立天文學會のアツソシエート即ち會員に推薦せられ日本人として第一人たる月桂冠を戴ける臨時緯度觀測所長理學博士木村榮氏は我帝室より新に獎勵賞金を得たる帝國學士會院が此程授賞に就て規定せし所に據りて第一に賞金を受くることとなり五日を以て其式を行はれたり勿論木村項の發見に對する名譽の賞賜に外ならず其金額は僅に千圓に止まれど之に御紋章付の賞牌を添へらるゝ次第なれば金額の多寡の如きは姑く論外に措くべきなり

▲緯度の變化と木村項　木村項とは嚮に歐米の天文學者が發見したるXYの兩項に對してZ項と呼ぶものにして緯度變化の一現象なるが元來緯度の變化すべきものなることは既に百數十年前の歐米の天文學者に依つて唱導せられしも其事實を發見したるは近く二十餘年前のことに過ぎず爾來天文學界より深甚なる注意を拂はれ盛に之が研究を積まるゝに至り遂に世界の數箇所を選びて緯度の觀測を遂げ尙も其調査を進むることゝ成りしなり斯くて博士は該事業の一部を擔任し水澤に於て緯度の變化乃至地軸轉換の研鑽に從ひたる結果緯度の變化が單に地軸の轉換のみに基く譯に非ず同一の緯度上に於ても尙略同樣の周期的の變化あることを發見し之をZ項と名づけたるなり而して其木村項と呼ばるゝは發見者たる博士の名譽を記念する爲に外ならざるてと言ふ迄も無し

▲緯度研究の泰斗　木村博士が木村項を發見したるは全く天文學に精通し其蘊蓄の深く且大なるに基き而して之が研精に熱心なる結果に外ならず博士の木村項の起る原因に就ての意見に據れば之は地球の表面の周期的變形又は地球の重心の周期的移動に基くものに相違なかるべしと信ずれば實際果して然るや否やは未だ確乎たる學術上の證據を擧げ得るに至らずといふ博士の說の外其原因に對して種々の學說を立つるものあれども今一層研究を進めたる上に非ざれば之が確定を見るに至らざるべきが何れにしても此發見は博士の蘊蓄の深甚なるを表白せる次第にて緯度に關する研究に於ては博士を推して世界に泰斗とするも素より不可なかるべし

▲木村博士の經歷　博士は石川縣金澤の產明治二十二年同地の第四高等學校を出で直に東京に遊學し帝國大學理科大學に入りて天文學科を專修し二十五年卒業進んで大學院學生となり主として緯度の變化を研究せり斯くて三十一年田中館博士と共に萬國測地學委員會に列席の爲め洋行し翌年歸朝して水澤なる觀測所長と成れり其博士の學位を得たるは論文提出の結果にして實に三十六年のとなりき猶木村項を發表したるは博士が再び萬國測地學委員會に列席したる三十九年にて木村項を首め博士の研究に依つて發見せる事項を公表し列國の委員をして驚嘆せしめたる次第なり去れば博士が嚮に英國王立天文學會より推薦の名譽を負ひ今日は又我學士會院より授賞の光榮に浴するは決して偶然に非ざるべし

七月五日帝國學士院內ニ授賞式ヲ擧行セラレタル理學博士木村榮氏ノ拜受セラレタル恩賜賞賞牌ノ寫影

文苑

◎夏雲集(一)　雲遊霞宿堂主人

毒ありと君が敎ふる野の花をしひてかざゝん我が[illegible]

○

鐘の音は京こそよけれ智恩院雨夜にきゝしその鐘のこゑ

○

捨るべき名さし思へど捨てかねてただに迷へりさて捨つべきか

○

雲にいる鳥影一つ老僧はねむるが如く山靜なり

○

雨すぎし松の山道我が袖のぬるゝがまゝにただ月を見る

養病京城醫院其房云蘇室因似　加藤游漾

牛背村童笛。一揚高一揚。悠然華胥夢。自得在蘇室。

召使れ初

黑法師

第百回

假にも五萬六千石の姫君が、敵ならぬ身に劍はせて、澁々禮を述べさせしれ心の中思ひ遣りて、澤野は同情の涙湧き返る如くなりき、唐橋殿言葉ありてとは云へ、御口づから禮の一言を云はせられて、そのれ心に對しても、有るたけ忠勤を勵まねばなるまじく、更に進みてこの姫君御世繼に立たせ給ふ手術を廻らさねばなるまじ、れ腹は唐橋殿なれど、同じ奥方姫君なり、唐橋殿は日蔭兒にして、表面のれ母君は奥方なり、さすれば何方御讓あらせんとも、奥方を疎略になさせたもふことはあるまじ、さるを富貴姫樣をのみ御寵愛あらせて、日の光も月の光も、富貴姫樣の御上にのみ光らせるやうにと願ひ給ふ、御諫言申上げるとも御聞かせあるまじ、一心の誠を神に捧げて、政姫樣御相續の望み遂げでは置かじ、政姫樣を御世繼にして、國尾どのれ達どの敎等一派に心を寄する女中達に鼻を空させでは置かじ。

澤野は深くも思ひ決めぬ、彼女が性質の負けじ魂は殘る方もなく、現はれて、富貴姫樣憎きにもあらず、奥方恨めしきにもあらず、只國尾一派に對する勢力爭ひの上より、飽くまで政姫樣を世に出さんと覺悟せしなり。

「をゝ、澤野に……敵ならぬ澤野に頼ひとの御一言あらせましたな、そのれ詞此胸に深く彫んで、死ぬまで忘れは置きませぬ、死ぬるまで姫君の御召しを頭に戴くでござります」

「澤野どの彼の樣に仰せでござりまするで、樣も御安堵遊ばさねばなりませぬ、樣の御安堵はやがて唐橋の安堵でござります、それも是も皆澤野どの御力行末長く澤野殿を杖柱とならせられ」

「澤野を杖と頼むに、澤野よくしてかもれ」

政姫はまだ十三の蕾の唇に大人びたる御聲、大人びたる御詞なりき、この御詞に對しても澤野は一かどの忠義なくては協はじ。

「れ頼みはござりませいでも、外ならぬ姫君御事、仇に致すことはでござりませぬ、總て御安堵でござりませ」

「平にの」と政姫は念を押させて「蝶々はまだ眠りてあるかの」

「何とでござりませうかな、侍女衆られに蝶々が止りありまするかな」

「蝶々でござります、紫陽花の上に可愛らしく止つて居まする」

されど政姫はまだ小供なりき、蝶々に心を惹かれながら夢の如く立ち上がらせぬ。

「れ姿は大きうても、まだれ小供でござりま」と澤野は後を見送りて「れ心はまだれ小供でござりますな」

「まことぢやの」と唐橋も餘念なく見入りて「親心ほど不思議なものはないで、彼の樣を日蔭に朽ちさせたう思はぬわの」

「御尤もでござります、然し天道樣守らせ、樣の行末は千萬歲でござります」と澤野は云ひながら膝を進めて「ここに一つ手術ござります」

「はての、什麽樣手術ぢやの」

「中年寄れ道どの兄御に、正木佐十郎と申すがござります、御存じなさせぬでござりませうな」

「聞きも及ばぬ、何れにれ越しでござりまするな」

「まだ聞きでござりませ、實の處は澤野推擧、此程御師南番格三十俵取御召抱へあらせられてござります」

「ね」と唐橋は驚いて「れ道どの肉身の兄を御推擧なされたぢやの」

東京電報（十一日）

▲條約改正の成績 各國との通商條約改正事業は既に十一箇國と終了し未決は四箇國に過ぎず

▲海獸會議と當業者 日英米露四國間の海獸保約締結に關し當業者は之に反對すべく檄を發し

▲議員選擧結果 [illegible]

▲官鐵被服工場 [illegible]

▲市營違案法 東京市會議員秋虎太郞氏は電車市營の決議を違法なりとし十一日訴願を提出したり

▲閑院宮御避暑 閑院宮載仁親王殿下同妃殿下は若宮姫宮三殿下と倶に小田原御別邸に御避暑相成りたり

▲檢閲使御歸京 陸軍特命檢閲使伏見大將宮殿下は豫定の御檢閲を終らせられ十日午後一時三十分新橋着列車にて京都より御歸京相成られたり

▲暑中拜謁中止 暑中に就き本年も七月十日より九月十日迄特別の場合に限り內外臣に對し拜謁を差止めらるゝ事に御決定相成りたる旨宮內大臣より其他關係官衙に對し式部長官より通牒を發したり

▲森林法細則公布 農商務省は今十一日省令を以て森林法施行規則改正の件を公布したり

雜報

●自治問題諮問 總督府に於ける各府尹會議は前日に引續き十一日午前八時より寺內總督、山縣政務總監[illegible]

●郵便貯金增加 六月末日現在通信局爲替貯金管理所調査に係り總督府通信官署取扱に係る郵便貯金人員十五万六千二百四十八人にして同預金額三百六十三万三千二百〇五圓なるが之れを前年の同期に比すれば人員に於て三萬七千五百八十人を金額に於て百十八万九千七百七十七圓の增加を示せり

●人蔘栽培區域擴張 [illegible]郡外七郡なるが逐年氣候等人蔘の栽培に[illegible]生產なせる事あり[illegible]しが今回蔘政課に[illegible]る計畫にて多分明[illegible]と云ふ尙平安南道の[illegible]間の試作をなせしか[illegible]との事なり

●共和祭祝賀 來る十四日は佛國共和祭に相當するを以て同國[illegible]祝賀會を催する筈な[illegible]領事館に於て同日午[illegible]で一般の祝賀を受くべしと云ふ

●間島移住增加 北韓に於ける貧民部落の全住者の日に多きを加[illegible]の如くなるが近來[illegible]何れも生活難を[illegible]に移住するもの激[illegible]もの如く現に六月[illegible]る咸鏡南北兩道の移[illegible]餘人にして之れを本[illegible]人に比すれば約三[illegible]る次第なり尙ほ昨今[illegible]移住するもの又甚だし

●淸津第二埋立 淸津第二埋立は最初の豫定によれば既に工[illegible]き筈なりしが先月上[illegible]計に就て變更を要す[illegible]總督府に申請中な[illegible]る筈にて認可の上[illegible]手すべしと

●京城手形交換成績 六月中京城手形組合に於ける手形交換成績を記せば左の如し

	枚數	交換額金
韓國銀行	[illegible]	百十六萬二千圓
第一銀行	[illegible]	八十九万五千圓
百三十銀行	[illegible]	六十二萬三千圓
十八銀行	[illegible]	四十三万九千圓
漢城銀行	[illegible]	二十五万一千圓
天一銀行	[illegible]	三十八万九千圓
韓一銀行	[illegible]	十二万圓
漢湖農銀	[illegible]	二十一萬圓
京城郵便局	[illegible]	十七萬二千圓

▲仕拂手形

	枚數	金額
韓國銀行	[illegible]	八十四萬九千圓
第一銀行	[illegible]	八十四萬四千圓
百三十銀行	[illegible]	五十九萬四千圓
十八銀行	[illegible]	八十五万一千圓
漢湖農銀	三九四	二十八萬五千圓
商業銀行	二、一七一	三十三萬一千圓
韓一銀行	三〇六	十三萬六千圓
漢城銀行	二二九	十九萬七千圓
京城郵便局	一、三四二	十七萬二千圓

●總督の府尹招待 寺內總督は十二日午後六時より目下會議列席の爲め滯京中の各府尹を主賓とし各部長官各局長警務總長を陪賓とし同官邸に招待し晩餐の饗應ある筈なり

●全國特產品博覽會 私設的博覽會の開催を目的とする帝國實業協會にては第一回乃至第三回共豫想外の好結果を占めたるが來る九月二十八日より十一月五日迄で香川縣高松市香川縣物產陳列場に第四回全國特產品博覽會を開催せしとて當會議所に出品を照會し來れるを以て出品希望者は同所に承合さるべしと

●春川機業傳習所 江原道廳にては春川に機業傳習所を設け來る九月より授業を開始する筈にて各郡へ生徒の推薦方を交涉中なり又洪川郡にては養蠶所を設け內地人の敎師を招聘する筈なりと云ふ

●韓一銀行總會 韓一銀行は來る二十二日午後二時より鍾路商業會議所に總會を開き當日決算報告利益配當を行ふ筈

●商議總會流會 十日午後開會副會頭及び常議員の選擧をなす筈なりし京城商議會議所の議員總會は山口太兵衛、大橋淸三郞、西元榮之進三氏外一名の議員出席せしのみにて終に流會となれり黨爭の弊終に此に及ぶ苦々敷の限りなり

●辯護士大會 全國準備 過般報道せし當地辯護士會にて法曹界の振起を計る目的を以て辯護士協會支部を當地に設置すると同時に全國辯護士大會と支部發會式を京城に開催せんとの計畫は爾來着々歩を進め之れが準備に着手することゝなりしかば辯護士會を開き準備其他に於ける委員を設け愈々八月上旬大會を開くことに決定せり而して委員は左の如し

照會及來賓接待委員（大久保大崎兩辯護士）支部規則起草委員（木尾白井兩辯護士）宴會其他準備委員（岡田中村兩辯護士）會計委員（岩田木尾兩辯護士）

●人蔘調査終了 開城外七郡に於ける人蔘耕作に關し其植付數等を檢査すべく蔘政課に於て部員を督勵し從事中なりしが約四十日間を費して漸く去る八日終了したるが今後はかゝる嚴密なる檢査をなす必要なかるべく又耕作者も十分に法令を遵守して密作などする者もなきに至れりと云ふ

●金融組合の開設 京畿管內に於ける金融組合の本年度增設は五ケ所なるが其內廣州、長湖院、富平、長湍の四ケ所は七月三日付を以て設立委員を任命し理事たるべき內地人は本月十四日迄に夫々着任する筈にて開業も近々なるべしと云ふ

●振替貯金名簿 總督府郵便爲替貯金管理所にては本年四月末日現在の東京大阪福岡臺灣京城等に於ける振替貯金加入者名簿を調製し廣く一般に頒附する由なるが一部定價七十錢なり（希望者は爲替管理所に申込まるべしと）

●平北の漁獲高 平安北道に於ける本年四月より六[illegible]間に於ける石首魚、大刀魚の[illegible]高は一萬千七百圓餘に上り同地方の商業も例年になき好況なりき又龍岩浦を根據として同近海の出漁船は初期に於て豐漁なりし爲め內地へ五萬餘圓送金したるも次期より不漁となり漁夫中には歸鄉旅費に窮する者續出し內地より旅費を取寄せたるもの約九百圓に達したり

●朝鮮商業銀行上半期の成績 遠山支配人談……

昨今京城新報紙上に散見するが如く今春來恩賜公債其他地所買賣盛んに行はれたる關係上概して朝鮮人側の金融至極順調なりしを以て案外金融は閑散の狀態を持續せり隨て當行上半期營業成績の如き尙ほ調査を要する點あるも大體に於て前期成績のそれと大差なし即ち當期純益金二万餘圓なるが來る十九日總會を開き事業報告及利益配當を爲す筈にて目下夫れぞれ調査中なり配當は尠くも一割以上なるべし其他預金に於て大差なし貸金に於て約七八萬圓の減額を見たり貸金の減少は要するに金融の緩漫を意味するに外ならずと雖も一面恩賜公債土地賣買米豆出廻り等豐況を極めたる關係上久しく持續したる不況を打破し大勢は活氣橫溢となりつゝあるは一般の認むる處なり尙ほ二三の地方より支店又は出張所の設置を希望するものあるも當行は愼重研究の上業務の擴張を計る心算なり云々

●北鮮の鯖節 今回咸鏡北道廳に於ては鯖節製造獎勵の一着手として鯖流網を以て鯖魚を漁獲し鯖節製造試驗の爲め流網（六十圓）及び漁具一切を淸津居住の葛西勇次郞氏に貸與し尙は補助金として一漁期九十圓を給與し其製造場を魚市場西側に設置せしめ道廳より技手出張製造方法を敎授し大に鯖節製造に着手する筈也

●鴨綠江の水路嚮導 六月中に於ける鴨綠江の水路嚮導船は出船日本十二隻淸國二隻諸國四隻合計十八隻噸數一萬二千噸にして入船は日本十四隻淸國三隻諸國四隻合計二十一隻一万四千八百八十四噸なり

●鮮人敎師夏季講習會 鮮人敎師の講習會に就て內務部の希望としては當地に召集し度きも何分經費の點に於て不能なりとし本年度夏期講習會は各道廳に於て施行すべしと

●三浪津水害 附近 洛東江沿岸一帶の平地は全部浸水し鮮人男一溺死浸水家屋四十戶其の他人畜の被害多かるべき見込當所在地に於ても停車場及本署の外全部浸水せり署員は全力を盡し避難民の救護に力めつゝあり又洛東江出水の爲め三浪津署管內浸水家屋約三百尙ほ人畜の死傷あるやは斗り難きも交通杜絕につき明ならず（十一日警務總監部着電）

●馬山線不通 豪雨の爲め不通となりし京釜馬山兩線の中京釜線は十一日午前より開通し馬山線は三浪津洛東江驛間今尙ほ不通にして船便にて貨客の聯絡を爲しつゝありと

●各道長官歸任 地方官會議閉會後各地視察中なりし各道長官は本日にて視察日程を終り十二日頃より夫々歸任すべしといふ

●咸北內務部長 前咸鏡北道內務部長たりし中井喜太郞氏病氣の爲め依願免官となりしが其の後任には道事務官帆足準三氏決定し十一日の官報を以て發表されたり

●佛國艦隊入港 佛國東洋分艦隊司令長官海軍少將ラクロアドアトリー氏の率ゆる巡洋艦デュプレイキス外一艘は十日午後旅順より仁川に入港せしが同地には四五日間碇泊の筈にて來る十四日は恰も佛國共和祭に相當するを以て艦上に於て祝賀會を催するやに傳へらる

●各地水害狀況 各地水害狀況に付去る八日より十日迄の間に警務總監部に達したる公電に依れば左の如し

▲全羅北道 七日以來豪雨の爲め男一溺死し家屋六百四十五戶浸水一戶破壞し橋梁流失五十四破損十三道路破損三堤防破壞九其の他交通杜絕の箇所多し尙は取調中

▲全羅南道 兩三日以來の豪雨の爲め約二丈余增水し榮山浦及南平の橋梁陷落し家屋十三戶耕作地約二萬町步浸水し今尙は浸水せんとしつゝあり人畜に死傷なし

▲慶尙南道 七日夜來の豪雨にて河東郡蟾津江平水より一丈五尺增水し家屋六戶田畑七千町步浸水し及晋州郡南江（洛東江上流）平水より一丈二尺增水し交通杜絕す人畜死傷なし其の他尙は取調中

▲忠淸南道 七日以來の降雨の爲め錦江江景附近平水より一丈五尺增水し公州附近も汎濫して道身上に上り渡船止まる又輪山河は一丈五尺增水し爲めに交通杜絕す尙は鳥致院大橋里間の道路破損し交通不能及三南線に數箇所の缺潰ありたるを以て昨十日よりの開通は不能なりと云ふ尙は七日來の降雨にて太田驛を去る南方約三十間の處の小鐵橋破壞し爲めに八日午後十二時一分着北行列車は右の破壞箇所にて又た十二時三十分着急行列車は太田驛にて停車したるも假修理を加へ南行北行共に午後一時三十分發車し之れが爲め南行一時間北行は一時三十分延着せり

▲京畿道 七日以來の降雨にて臨江は九日に至り平水より約十二尺五寸增水したるを以て之れを取外し麻浦船橋破損せるにより船渡の交通杜絕せり尙は增水せんとする傾向あり

●牛種改良の成果 本春三月より開始せし京畿道管內に於る牛種改良事業は種牛十一頭を各郡に交付し目下盛んに殖種を獎勵しつゝあるが各郡とも畜牛者は喜んで種牛を迎ふる有樣なれば遠からず牛種の一變を見んかと云ふ

●郵便爲替 管區交涉 通信局調査に係る本年六月中の郵便爲替管區交涉の狀況を示せば朝鮮振出內地拂は三百十一萬〇四百七十三圓にして內地振出朝鮮拂三十四萬四千九百十四圓なれば差引二百七十六萬五千五百五十九圓なり之れを前年度に比すれば前年度六月は朝鮮振出內地拂百四十三萬五千四百八十七圓、內地振出朝鮮拂二十七萬六千六百九十九圓差引百十五萬八千七百八十八圓なれば結局百六十萬六千七百七十一圓の激增を見たる譯にて朝鮮に於ける內地人の活動と勤勉を察すべし

●朝鮮辭書編纂 取調局にては朝鮮の辭書編纂中なるが從來朝鮮には辭書類皆無なるを以て其編纂非常に困難にて容易の業には非ず從つて時日を要すべければ脫稿期は前以て豫測し難しとなり

●新義州と神社 新義州に在住する內地人は豫て同地に神社を建設せんと計畫し今回落成したるを以て平安神社と稱し去る一日二日の兩日上棟式及鎭座式を執行し餘興には擊劍、角力手踊、煙花等あり同地未曾有の賑ひなりと云ふ

●仁川電氣重役會議 仁川電氣株式會社にては十一日午后二時より重役會議を開催し營業報告を協議せり

●牙山觀察團來る 牙山鮮人觀察團五十餘名は十日入京十一日は總督府を訪問したり

●大邱電株景況 大邱電燈會社の一般に割當てたる株式は去五日締切の拂込を爲さしめたるが期日拂込濟のものは五百株に對する約十分の七にして殘十分の三は拂込未了のものあり

●釜山水產不評判 釜山水產會社は釜山に於ける水產物販賣を悉く自己の手に收め利益を壟斷せんとする手段に出づるを以て漁夫連の不便を感ずること甚しきとは屢々耳にする處なるが此程會社仲買商の一人が鹿兒島漁船の漁獲物のみを販賣しをる鹿兒島水產組より魚類を買込みしを聞くや營業上の妨けをなす者也とて除名せしに獨り此仲買のみならず同社の仲買商は殆んど右鹿兒島水產と取引をなしをるに唯一人を除名せるは不當なりとの物議を惹起せしのみか漁夫は皆同社の橫暴を憤り魚港の一日も早く完成せんことを希望しをれりと

讀む可し讀む可からず

山水道人

▼柔順なる野象にして一蹴敵を屠るの大牙有り。

▼怯惰鼠に驚くの麋鹿にして尖銳の頭角を備ふ。

▼獰猛の性、常に能く敵を搏つ虎豹の類、曾つて此種の武器有るを見ず。

▼自然や異、天理能く整ふ。

▼斯くて與へられたる天下の武器は、進んで他を犯すの具ならず、退いて生を全するの用耳。

▼更に思ふ、他を殺すは宇宙を傷け、自ら殺すは宇宙を損す。

▲若し夫れ十字街頭狂者白刄を弄するあらば、人は義として是を奪ひ須く天下の公道を開く可し矣。

▲頃者客有り、頻りに理を踏つて、人を嘲り世を咀ひ、正理の重んぜられざるを憤る。

▲即ち答へて曰く、米をたくに飯をたくと云ひ、水を沸かすに湯を沸かすと云ふ、兎角世間は粹に行く可し。

▲更に一人有り、名士は聞いたより會つて見れば案外ヤマらぬとコボす、シテ見れば大木は皆空洞なり古社かナ。

公人私人

▲藤原介象（東亞煙草平壤出張所支配人）十日山本旅館へ

▲笠貫次郞（全羅警務部長）十日釜山行

▲寺平宮會（春川憲兵隊長憲兵中佐）十日春川行

▲長谷川友雄（國民新聞記者）十一日平壤行

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
七月十一日	一六〇、七〇八、四四〇	九一〇

▲治外法權▼

寺內總督の訓示文書中にある會社令の說明は、一樣にして而かも非常に尤で無[illegible]ろがある、其或部分に曰く「有利なる事業に對しては相競ふて同一の計[illegible]すの弊なきに非ず」云々、アー[illegible]の出師表を讀んで涙の出ない人[illegible]前記說明の文字を讀んでは涙が[illegible]非常識、非常識、個人の事業も會[illegible]も競爭に因つて進步するものな[illegible]を無視する、競爭は是れ事業の[illegible]ることを無視する▲开は現も會[illegible]會社令に依る許可出願に要する[illegible]多いことは古今無類だ、總督[illegible]を知られたら驚かれる許りだ▲[illegible]住の某が某會社設立の許可を受[illegible]ため願書を府廳に出した、願書[illegible]止まること十日次いで京畿道廳[illegible]た、願書道廳に止まること十日[illegible]農商工部へ廻つた▲願書農商工[illegible]まること二ケ月餘、其間警務總[illegible]手で發起人の信用及び財產の調[illegible]り、愈許可と決し元來し途を歸[illegible]可の指令が出願人に下つたのが[illegible]日から一百餘日目で、而かも之[illegible]番早い分であるので、其遲いの[illegible]たら幾日掛るか判らぬ▲アーた[illegible]出願者が關係官廳へ毎日の[illegible]百度を踏んですらコレだ、地方[illegible]が待てども、待てども、指令が[illegible]め、遂に企業に對して氣拔がす[illegible]珍しくない話だ▲序に記す、[illegible]て居るのが警務總監部のヤル[illegible]信用及び財產の調査だ、發起人[illegible]人の許へ憲兵の刑事が來る、[illegible]君にドレ程の信用があるか、[illegible]の財產があるか▲聞は以上に[illegible]君が今度計畫する某會社の事[illegible]があるかドウかねと迄で質す[illegible]す刑事に對し、質される發起人[illegible]恐縮の態だ、アー人の信用[illegible]產額を知らんとするに其本人[illegible]調査するとは洋の東西を通じて[illegible]聞の事だ▲加之警務總監部は[illegible]原籍地へも照會する、ソレャ[illegible]多くの日數を要する、出願に[illegible]令の手間取る豈偶然ならんや[illegible]乍併斯くの如きは總督の意志[illegible]れば亦た會社令の精神でもあ[illegible]而し事實は事實として之を寺內[illegible]目に逐し閣下の一考を煩はさ[illegible]まい。

藝妓健康診斷の議と各方面の意見

藝妓に健康診斷を受けさせると云ふ議が傳はつて以來其の側の恐慌と云つたら凄まじいものだ、無理だ人權蹂躙だなぞと憤慨するもの、身に覺へがあるから受けても宜しいけど軍醫さんぢやア堪らないつて新町の娼妓さんですら檢査と云ふと慄へて御座る、まして初めて出會す妾達は恐いと云ふもの杯様々である、從つてでげす從つて局外者にして而して深い關係のある客筋の中にも賛否の論がある、此の時に際りて之れを紹介することも世に無益の業ならんやでしよう

英人シービー氏

今度京城のグーシャガールに健康診斷があるとの事ですが私共には何の關係もありませんから成らう事なら之れに就ては話する事を止め度と思ひます併し、何うしても私共外人側の意見を聽き度と仰云るなら單に私一個人としての考へを話し爲ませう。

他でも有ません、グーシャガールは貴國の特産物であつて又御自慢なもの〻一つで有ります、私は獨逸、佛蘭西、亞米利加等に居りましたが何國にも此のグーシャガールの如な者は居りません、私の知る範圍から申しますと

グーシャガールの執る職務は歌や舞や音樂や又は話などして**宴席の興を幇け社交を圓滿**ならしむるに有ると思ひます

デ、私共がグーシャガールを見ることは歐羅巴や亞米利加に於ける女優の夫れとは大に異つて居るのであります、

歐米の女優は上等な分は別として普通の者は**贔負客と種々な裏面の關係**を公然持つて居るのでありますが併も夫れ等に對してすら健康診斷なぞあつた事は有りません、尤も**カッフヒー**に出入する女性に對しては時に健康診斷を行ることは有りましたが之れも伯林杯では其の市の繁榮を圖る爲とかで爾三年來行らない様になつたので有ます。

處でカフヒーに出入する女と女優とは全然別物であります、若も女優に對して**檢黴**でも行ると云ふなら夫れこそ倫敦でも伯林でも巴桜でも乃至紐育でも**大問題を惹起す**のであります、成程單に衛生上から云へば女優の健康診斷は必要の様でもあるが併し女優を醜業婦扱ひにするに於ては演劇其ものを侮辱することになる、結果は小弊害を除かんが爲めに大弊害を誘致することゝなります、全体此の**世の中に存在する者**は何ぞ限らず總て**美醜の兩面**を持つて居るものであるから社會の利益に成る事を考へて大きな善を成す場合に小さな善を犠牲に供するのは何でもないが之れに反して小善の爲めに大善を犠牲とすることは不可ません。

私は今迄東京、大坂及當地に於て貴國上流の方々に屢々御馳走になつた、特に元統監府**今の總督府**の

西方大關　國見山

方々に**御馳走**になつた時分には何時もグーシャガールが侍して居た彼等は言葉は通じなくても一種獨特の手腕を以て其席を面白くした、然るに其の御馳走の席に侍つて居たグーシャガールが此度愈々健康診斷を受けねばならぬものと聞いては自分は曾つて受けたる御馳走は一種の**侮辱**であつた様に感ずる。

自分は曾つて**馬山**と云ふ所へ行つたが其所では領事時代からグーシャが同時に娼妓の鑑札を持つ事に成つて居るのだと聞いた自分は或る友人の御馳走を受ける際も娼妓兼グーシャと同席するの苦痛なる事を述べて其の侮辱を免れた、思ふに京城に於てグーシャの健康診斷を行ふとすれば馬山に於けると同様我々はグーシャなる者を不名譽なる職業に從事するものとして彼等の侍する宴席に列する事を避ける、左様なつたらば頗る不便なものである、自分を以て言はしむれば之れ小善を成さんが爲に大善を犠牲にするものであります。

鳴呼、グーシャガール、グーシャガール、何うか彼等を惜い者として置きたい、而して貴國の奥さんや嬢さん達が饗客に巧になる時迄彼れ等を惜い者と目做して實席其の他の場合に於て**社交界の華**を眺めたいと思ひます

梁起鐸事件公判

梁起鐸外十七名に係る保安法違犯被告事件は十一日午前八時京城地方裁判所刑事部大法廷に於て塚原裁判長原鎌田兩陪席兩角檢事立會の下に公判開廷せられ被告辯護人として木尾大久保兩辯護士外鮮人八名出廷、傍聽人は二百餘名さしもの大法廷も立錐の餘地なく傍聽席に入る能はずして門外に居たる鮮人百餘名なりき型の如く席定まるや裁判長は被告十八名梁起鐸、安允在、林蚩正、權泰善、金道熙、甘翊龍、朱鎭洙、金容奎、安泰國、金容參、高貞華、金熙祿、柳文馨、金鴻亮、玉觀彬、鄭達河に村住所及年齢を問ひ終つて兩角檢事は「被告梁起鐸等は數年年より舊韓國の國情を慨し舊韓國に於ける日本の勢力を排し舊韓國の國權を恢復するを以て國に忠なるものとし内は新聞紙に依り國民を覺醒し外は西間島に移住の朝鮮人を啓發養成し之れによりて舊韓國の國權を恢復を圖らんと一當時其の主宰せる大韓毎日申報紙上に屢々計畫並に其の思想たる排日的論議を發表せしが明治四十三年五月同新聞は賣却せられ次て同年八月日韓併合となりたるに依り被告は更に新たに新聞を發行して其素志を遂行せんとし佛人トレームレー等と共に其計畫をなしたるも容易に許可せらるべきを知るに及

西方關脇　黒瀬川

んで茲に專ら力を西間島移住事業に用ひんことに決し朝鮮本土より相當資力ある多數の朝鮮人を同地に移住せしめ土地を購入し部落を作らしめ更らに多數有爲の青年を募集して同地に送り以て在住の朝鮮人を教育し之れと相結んで民團を起し教會を建て小中の學校を設けて文明を進め進んでは武官學校をも設立して士氣を興振し機を見て舊韓國の獨立を計らんとせし者」云々と述べ以上の事實に就き裁判長は審問を續行し被告金成柱、金熙祿、金容參、金容奎等より一潟千里に訊問を爲し被告等の申立は大同小異にして梁起鐸の煽動に因りしもの〻如く申立て武官學校設立の上青年を教育し國權の回復を謀りしものなりとて犯罪事實の一部を認め一部分を否認し裁判長より昨年八月日韓併合の結果如何なる感を懷くかと問はれ何等所感を有せぬと申立る者あ

西方小結　鳳

るも大抵は東洋平和の目的にて併合されしものなれば大に喜悅の感を懷き居る旨穩當の申立を爲し安明根事件の二三者の如き國と盗棒するものもあるに吾等の强盗は差支なき抔暴言を吐きしとは正反對なりき事實の審問證據調べ終りて十三日午前八時より開廷せらる可く檢事の論告辯護士の辯論ある筈也

女振り

大關錦松君長女　松崎錦子

大關錦松君は茨城縣人で領事館時代に警部であつた現に旭町一丁目に住居して土木建築請負を業として居らる〻、錦子さんは其の一人娘である、昨春當地民團立高等女學校を卒業された、在學中はナカ〱其の……一人娘に特有の……明瞭に申すどれイタであつたがれ母さんがた厳しいので不檢束の夫れでは無かつた、本年春、總督府警務課會計係の松崎暢道君の許に嫁がれた、同縣人と云ふのが此の良縁を結び着けたに最も力あつたのである、暢道君は二十八で錦子さんは十八と云ふのだから花嫁盛りである、境遇と云ふものは總てのものゝ性行に變化を與ふるもので此の頃では錦子さんは元の錦子さんでない滅法肅やかに成られた、境遇の及ぼす變化は其の性行計でなく身体の上にも變化を來して嫁いで間もなき六月二十五日頃からドット床について一時は全快も覺束なかるべく見られたが安東、村上の兩國手其の他の盡力で今では略ぼ全快の域に達した、錦子さん曰く「御恩は一生忘れません」と、病後の御用心か第一である、

一八堂元檢擧さる

▽官邊に有力なる運累者

清國山東省登州府石島生れ當時仁川支那町永華街五十三居住無職王登清(三七)は幼少の頃より無頼の徒に與し漸く長じて惡徒の本性を現はし滿洲其他至る處に於て賭博を業として良民を欺き金錢を捲揚げつ〻も巧に其筋の目を掠め居たるが數年前より仁川及京城等を股に掛け大に手を擴げて一八の仲介人を立て盛に販賣しつ〻ありたり右一八は三十六卦と稱する者にて晝夜二回宛執行し場所は又二ヶ所に分れ開封しつ〻ありしが其の勸誘に就ては仁川在留清國人の階級の如何を問はず强請的に購買せしめ良民に迷惑を感ぜしめつ〻ありしも雖も清國領事館にては抽手傍觀の体なりしに仁川署にては之を探知し署内支那語通なる阿比留巡査の檢擧に取蒐りたれども彼等は巧に其の住所等を晦したるより苦心捜査の結果去七日午前一時半住所不定の王顧瀾(六八)が京町一丁目に於て三十六封開封の結果を通知すべく紙片及金錢を交付しつ〻ある現狀を認めたるより直ちに逮捕し本署に引致取調べたる處同鬮元は前記王登清なる事を白狀に及びたるより同巡査は直に王登清を逮捕し引續き原籍山東省登州萊陽縣當時仁川支那町永華街住無職姜言進(二七)王維岡(二八)王文坊(三〇)等を逮捕せり彼等は東組西組の二棟に分れ前記河南省開封府祥符縣生當時仁川新町傳某方住王顧瀾が主として中介をなし居たる者にて王の逮捕にて連累者を捕縛するに至りたるもので仁川署の野村警部は嚴重彼等の取調をなし十一日檢事局へ送りたり因に從來彼等が巧に法網を免れつゝありし故は官邊に有力なる運累者ありし故なりとの事にて已に嫌疑者の一部は逮捕せられたる由なれば追而詳報すべし

●京元線の椿事

二名重傷四名輕傷

目下工事中なる京元線は去る六日京城豆毛面斗毛浦の二工場間に於て建築材料運搬列車三臺線路故障の爲め脫線し乘車人夫二名重傷四名輕傷を負ひたる由にて龍山鐵道局より醫師三名看護婦二名を現場に急派して治療せしめたるも人夫姜萬壽は翌日死亡したり

●食逃窃盗を兼業す

福岡縣人當時青坡町西村勇作(十八)は六月二十日古市町飲食店本野政一方にて五十一錢の無錢遊興を爲し又二十三日龍山旭橋通り菓子商小淵庄一郎方にて現金五圓を窃取せしより南部署に檢擧され檢事局送り

●仁川女郎の室扶斯

仁川遊廓第一敷島樓抱娼妓東京本所區横網町一の三生れ醜業山田せん(二〇)は去る五日發熱以來仁川病院にて治療中なりしが一昨十日午後四時腸窒扶斯と變じ避病院へ送られたり

●兵兒帶で縛らる

福岡縣人當時大和町一丁目有本捷太郎(二六)は六日午前九時大和町一丁目村上義一郎方にて縮緬兵兒帶一筋を窃取し檢事局送り

●豆腐代金を横領

原籍東京市淺草區神吉町六番地生れ當時龍山山下町一丁目四十三番戸豆腐製造業横田重衛門方雇人木村善一(三二)は本年五月廿九日龍山鐵道官舍栗原儀介外數ヶ所に於ける豆腐賣掛代金七圓五十錢餘を横領費消せし事發覺せられ此程龍山憲兵分隊より横領罪として檢事局に送らる

●阿片吸飲者捕はる

原籍山東省登州府蓬萊縣生當時仁川支那町東横街外量方居住劉春池(四三)は去七日午後四時頃同所にて阿片吸飲し居たる現場を折から巡回中の警官に認められ仁川署に引渡され取調の上昨日檢事局へ送らる

●尻を五十づつ

金潤均(二九)夫聖池(二九)金義成(二六)金京有(二五)の四名は十日午後七時四十分頃米倉町鮮人宿に於て賭博の現場を南部署に檢擧され笞五十に處せらる

●仁川の狂犬

一昨日仁川新町福西庄三郎の畜犬及京町川原辰次郎の畜犬は孰れも矢野獸醫の診斷により狂犬病と判明し直ちに撲殺せり

●演藝だより

●歌舞伎座　日に增し好人氣なる木村猛夫の一行十二日夜の替狂言は『福禮利』全七場にして重なる配役左の如し

小花(野村君子)田毎新(桃井)醫學生藤井(木雪)尾形安武(三好)寅太(寺田)尾形宮夫(木村猛夫)

●浪花館　合併演藝會十二日の演し物は明石遥り、消元北州千歳壽、みかんや、宿替へ、小言幸兵衛、隅田川、不思議の御縁、俠車夫(柳丈)音曲くらべ

●歌舞伎座を評す

「歌舞伎座を評す」は讀んで字の如く歌舞伎座を評するのだ木戸口から棧敷掛から全体を一括して評するのだ觀客の作法不作法にも筆が走るかも知れぬ何うで出た所を其の儘である「木戸口」前からだが餘りに此所に人の眼が多い如に思ふ併し斯う爲ねば成らぬとなら罪は見物人たる互の方に有る、棧敷掛から茶子さんとやらにも改良の蹟歴々見るべきものがあるのは嬉しい、僕は二等だつたが一等席に比して二等席の面積の狹いのは可笑しい僕一個の考へでは平場即ち土間及二階正面を二等とし、東西棧敷及び高を一等とし特等と云ふものを廢したら何うかと思ふ此れは歌舞伎座に就てのみ云ふのぢやない夫れから此れは見物の方だが便所の扉を開放して置く人が多いので場所に依つて甚だしく臭氣に苦められる事だ、局座に涼しいので土間の上を見ると大煽風器が勢ひよく回轉して居る東西兩棧敷にも風の神が侍ねて居る比較的涼しい此の頃は兎に角として盛暑の候に入つたら其の功能が頗著になるであらう之れも嬉しい景物である(〇生)